

全国人気温泉地ランキング
男女別・年代別

温泉地名		都道府県	得票数	昨年 順位
男性 (n=5,953)	第1位 草津温泉	群馬県	1040	1 →
	2 箱根温泉	神奈川県	985	2 →
	3 別府温泉郷	大分県	813	5 ↑
	4 由布院温泉	大分県	807	3 ↓
	5 登別温泉	北海道	794	3 ↓
	6 道後温泉	愛媛県	689	6 →
	7 指宿温泉	鹿児島県	595	7 →
	8 乳頭温泉郷	秋田県	501	9 ↑
	9 黒川温泉	熊本県	463	8 ↓
	10 有馬温泉	兵庫県	445	11 ↑
女性 (n=6,064)	第1位 箱根温泉	神奈川県	1126	1 →
	2 草津温泉	群馬県	932	3 ↑
	3 由布院温泉	大分県	884	2 ↓
	4 別府温泉郷	大分県	878	4 →
	5 登別温泉	北海道	700	5 →
	6 道後温泉	愛媛県	640	6 →
	7 有馬温泉	兵庫県	579	8 ↑
	8 黒川温泉	熊本県	570	7 ↓
	9 指宿温泉	鹿児島県	520	9 →
	10 城崎温泉	兵庫県	484	11 ↑
20代 (n=729)	第1位 箱根温泉	神奈川県	179	1 →
	2 草津温泉	群馬県	122	2 →
	3 由布院温泉	大分県	111	3 →
	4 別府温泉郷	大分県	106	3 ↓
	5 下呂温泉	岐阜県	80	－ ↑
30代 (n=1,795)	第1位 箱根温泉	神奈川県	350	1 →
	2 草津温泉	群馬県	293	3 ↑
	3 由布院温泉	大分県	276	2 ↓
	4 別府温泉郷	大分県	249	4 →
	5 道後温泉	愛媛県	192	－ ↑
40代 (n=3,439)	第1位 箱根温泉	神奈川県	586	2 ↑
	2 草津温泉	群馬県	529	1 ↓
	3 別府温泉郷	大分県	509	4 ↑
	3 由布院温泉	大分県	509	3 ↓
	5 登別温泉	北海道	450	5 →
50代 (n=3,716)	第1位 草津温泉	群馬県	640	2 ↑
	2 箱根温泉	神奈川県	608	1 ↓
	3 別府温泉郷	大分県	509	3 ↓
	4 由布院温泉	大分県	507	5 ↑
	5 登別温泉	北海道	500	4 ↓
60代 (n=1,968)	第1位 草津温泉	群馬県	330	1 →
	2 箱根温泉	神奈川県	329	3 ↑
	3 登別温泉	北海道	295	2 ↓
	4 別府温泉郷	大分県	274	5 ↑
	5 由布院温泉	大分県	251	4 ↓

分析 ♨️ 男女や年代で意外と違いがあると判明
誘客強化すべき層が見えてくる…!?

◆男女別ランキングは同部門を発表した2010年以来変わらず、男性部門は草津温泉、女性部門は箱根温泉が1位に。また、男性部門は有馬温泉、女性部門では城崎温泉が前回から変わって10位入り。有馬温泉は女性部門では6年連続でトップ10圏内にいるため、女性人気を保ちつつ男性人気も高めることが総合ランキングの順位を上げるカギといえそうだ。

◆年代別に見ると、総合ランキング11位の下呂温泉が20代では5位に。下呂温泉では夏と冬の花火やグルメ開発に取り組んでおり、温泉目的以外の若者層の支持も集めたと考えられる。若者層向け施策としては大分県とJRCが共同で2014年度～16年度に、22歳限定で温泉入浴が無料になるキャンペーン『お湯マジ! 22 in おんせん県おいた』を実施した。将来のリピーター育成に向け、若者のファンづくりは大切だ。

全国人気温泉地ランキング ベスト3の選択理由

「もう一度行ってみたい温泉地」と回答した理由。選択肢12個より複数回答5つまで。

	街の雰囲気が好きだから	温泉の効能や泉質が気に入っているから	自然に囲まれているから	交通の便がいいから	手頃な料金で行けるから
箱根温泉	53.0	29.9	44.1	55.5	28.7
草津温泉	68.2	66.0	28.0	17.1	19.3
由布院温泉	75.9	39.9	50.4	14.7	10.9
別府温泉郷	61.2	58.0	18.9	21.8	18.9

※ は回答者50%以上が選択

分析 ♨️ 「もう一度行ってみたい」理由は
「街の雰囲気が好き」が圧倒的多数

◆全国人気温泉地ランキングでトップ3になった温泉地の選択理由は、「街の雰囲気が好き」という回答が多い。どの温泉地でも「温泉の効能や泉質が気に入っている」という理由よりも割合が高くなった。

◆温泉地別に見ると、由布院温泉は「街の雰囲気が好き」という理由がずば抜けて高い。また、ほかの3温泉では2割前後の「交通の便がいい」との理由を箱根温泉では5割強が選択。他を圧倒する強みが連続1位を叶えているのかもしれない。

人
気
温
泉
地
の
上
位
組
は
定
番
化
。
牙
城
を
崩
す
た
め
に
は
…
?

初回の2007年版より数えて12回目を迎えた「じゃらん人気温泉地ランキング」は、前回より約300

人
多
い
1
万
2
0
1
7
人
の
回
答
を
得
て
よ
り
精
度
の
高
い
調
査
と
な
っ
た
。
さ
ま
ざ
ま
な
部
門
別
の
ラ
ン
キ
ン
グ
の
な
か
で
も
メ
イン
と
な
る
の
は
「
も
う
一
度
行
っ
て
み
た
い
」
温
泉
地
を
選
ぶ
「
全
国
人
気
温
泉
地
ラ
ン
キ
ン
グ
」
。結
果
を
見
る
と
ベ
ス
ト
50
の
顔
ぶ
れ
に
大
き
な
変
動
は
な
く、特
に
ト
ッ
プ
3
は
別
府
温
泉
郷
が
加
わ
っ
た
ほ
か
は
同
じ
温
泉
地
が
選
ば
れ
た。
毎
回、異
な
る
回
答
者
が
投
票
し
て
い
る
の
に
変
わ
ら
ず
に
支
持
さ
れ
る
秘
訣
は
ど
こ
に
あ
る
の
だ
ら
う。
そ
れ
を
探
る
べ
く、全
国
人
気
温
泉
地
ラ
ン
キ
ン
グ
の
回
答
内
容
を
細
か
く
見
て
み
よ
う。
ト
ッ
プ
3
に
な
っ
た
温
泉
地
を「
も
う
一
度
行
っ
て
み
た
い
」と
選
ん
だ
理
由
を
見
る
と、「
街
の
雰
囲
気
が
好
き
だ
か
ら
」
と
い
う
回
答
が
多
く、温
泉
の
質
よ
り
も

街全体の質が問われている様子。街の雰囲気は一朝一夕には変えられるものではないが、地域一人ひとりの力を合わせて創り出していける。自然環境や交通の便を変えることに比べれば、大資本を投入しなくても改善できる希望があるとも考えられる。

また、「もう一度行ってみたい」と思う温泉地として認知されるためには、どの層に対してのアプローチを強化すべきか把握することも大切だ。全回答者総合のランキングでは例年同じ顔ぶれでも、男女別・年代別に細分化すると上位陣に違いが見えてくる。このように自分たちの強み・弱みをまずはしっかりと把握して適切な手を打っていくことが、上位への道といえるだろう。

全国人気温泉地ランキングベスト50

(n=12,017)

	温泉地名	都道府県	得票数	昨年 順位
第1位	箱根温泉	神奈川県	2111	1 →
2	草津温泉	群馬県	1972	2 →
3	由布院温泉	大分県	1691	3 →
3	別府温泉郷	大分県	1691	4 ↑
5	登別温泉	北海道	1494	5 →
6	道後温泉	愛媛県	1329	6 →
7	指宿温泉	鹿児島県	1115	7 →
8	黒川温泉	熊本県	1033	8 →
9	有馬温泉	兵庫県	1024	9 →
10	城崎温泉	兵庫県	924	12 ↑
11	下呂温泉	岐阜県	909	10 ↓
12	熱海温泉	静岡県	834	13 ↑
13	乳頭温泉郷	秋田県	824	11 ↓
14	霧島温泉(霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷)	鹿児島県	765	16 ↑
15	鬼怒川温泉	栃木県	735	18 ↑
16	奥飛騨温泉郷	岐阜県	718	14 ↓
17	和倉温泉	石川県	654	15 ↓
18	蔵王温泉	山形県	622	16 ↓
19	洞爺湖温泉	北海道	593	20 ↑
20	湯の川温泉	北海道	590	24 ↑
21	加賀温泉郷	石川県	586	21 →
22	白浜温泉	和歌山県	580	22 →
23	定山渓温泉	北海道	568	26 ↑
24	阿寒湖温泉	北海道	567	25 ↑
25	玉造温泉	島根県	524	23 ↓
26	白骨温泉	長野県	520	19 ↓
27	伊香保温泉	群馬県	501	28 ↑
28	嬉野温泉	佐賀県	499	33 ↑
29	万座温泉	群馬県	485	27 ↓
30	雲仙温泉	長崎県	461	32 ↑
31	秋保温泉	宮城県	456	30 ↓
32	層雲峡温泉	北海道	446	31 ↓
33	飛騨高山温泉	岐阜県	440	34 ↑
34	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	436	29 ↓
35	鳴子温泉郷	宮城県	372	36 ↑
36	修善寺温泉	静岡県	358	38 ↑
37	那須温泉	栃木県	353	39 ↑
38	花巻温泉郷	岩手県	332	43 ↑
39	野沢温泉	長野県	331	35 ↓
40	ニセコ温泉郷	北海道	330	37 ↓
41	十勝川温泉	北海道	329	45 ↑
42	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森県	321	41 ↓
43	湯河原温泉	神奈川県	315	40 ↓
44	銀山温泉	山形県	300	42 ↓
45	四万温泉	群馬県	299	46 ↑
46	富士河口湖温泉郷	山梨県	288	49 ↑
47	日光湯元温泉	栃木県	276	44 ↓
48	淡路島の温泉(洲本温泉・南あわじ温泉郷・岩屋温泉)	兵庫県	272	63 ↑
49	伊東温泉・宇佐美温泉	静岡県	266	52 ↑
50	勝浦・串本・すさみの温泉	和歌山県	265	53 ↑

これまでに行ったことがある温泉地のうち、「もう一度行ってみたい温泉地」を尋ねた。複数回答5つまで。

分析 ♨️ 調査開始以来、1位は不動の箱根!
別府温泉郷が追いつけてトップ3入り

◆1位は12年連続で箱根温泉、2位と3位も3年連続で同じ温泉地が選ばれた。由布院温泉との得票差をここ5年間で年々縮めていた別府温泉郷は、今回ついに由布院温泉と同票を得て3位入りを果たした。

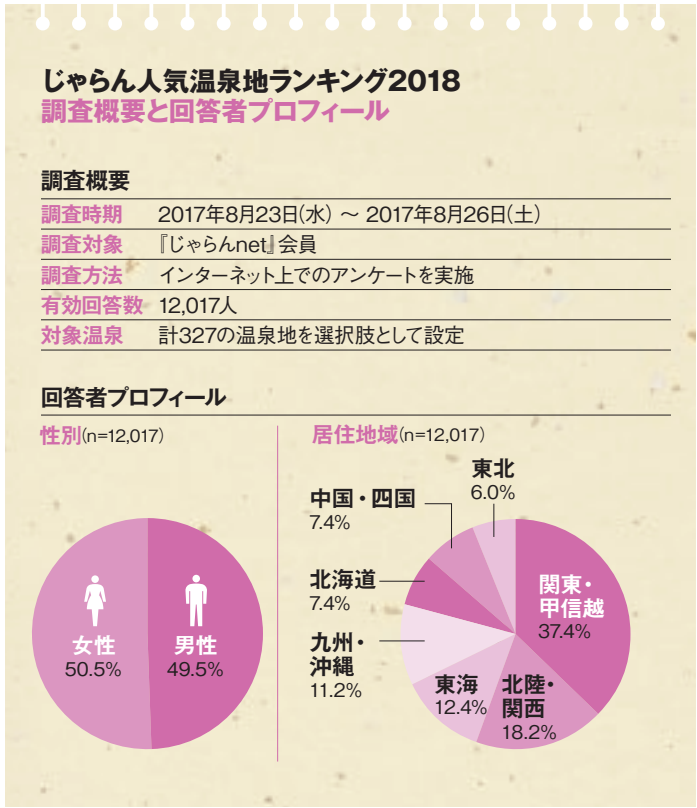
◆トップ10も前回とほぼ同じだが、城崎温泉が前回の12位から10位へと上昇。50位までの順位も大きな変動はないものの、15位・鬼怒川温泉、20位・湯の川温泉、23位・定山渓温泉など3ランク以上アップした温泉地も。28位・嬉野温泉と38位・花巻温泉郷は+5ランク、さらに48位・淡路島の温泉は+15ランクと大躍進。



話題を呼ぶ、人を呼ぶ

注目の温泉地

12回目を迎えた「じゃらん人気温泉地ランキング」の各ランキングが決定! 全国1万2017人のじゃらんnet会員により計327カ所から注目の温泉地が選出された。各部門のランキングや投票内容の分析を通じて、カスタマーに注目される温泉地の秘訣を読み解いていく。





部門別ランキングから

注目の温泉地を探る

ランキングを読み解くと、各温泉の支持者層や順位を伸ばしている注目の温泉地が明らかに。



箱根温泉は全国人気温泉地ランキングに加え、1年間の訪問経験ランキングでも1位に



全国あこがれ温泉地ランキングで不動の1位を誇る由布院温泉は豊かな自然に囲まれた環境

全国あこがれ温泉地ランキングベスト30

全体(n=12,017)

	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
第1位	由布院温泉	大分県	2698	1→
2	乳頭温泉郷	秋田県	1933	2→
3	草津温泉	群馬県	1767	3→
4	別府温泉郷	大分県	1708	5↑
5	指宿温泉	鹿児島県	1574	4↓
6	道後温泉	愛媛県	1486	6→
7	登別温泉	北海道	1374	7→
8	下呂温泉	岐阜県	1183	10↑
8	有馬温泉	兵庫県	1183	9↑
10	箱根温泉	神奈川県	1180	11↑
11	熱海温泉	静岡県	1114	12↑
12	黒川温泉	熊本県	1086	8↓
13	銀山温泉	山形県	970	13→
14	鬼怒川温泉	栃木県	801	16↑
15	白骨温泉	長野県	679	14↓
16	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	652	15↓
17	加賀温泉郷	石川県	642	17→
18	洞爺湖温泉	北海道	564	18→
19	蔵王温泉	山形県	558	20↑
20	和倉温泉	石川県	509	19↓
21	伊香保温泉	群馬県	478	21→
22	霧島温泉 (霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷)	鹿児島県	453	22→
23	ニセコ温泉郷	北海道	426	24↑
24	城崎温泉	兵庫県	407	26↑
25	黒部峡谷温泉群	富山県	396	23↓
26	阿寒湖温泉	北海道	391	30↑
27	玉造温泉	島根県	372	28↑
28	宇奈月温泉	富山県	353	25↓
29	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森県	344	27↓
30	奥飛騨温泉郷	岐阜県	298	32↑

「全国あこがれ温泉地ランキング」では、まだ行ったことはないが、「一度は行ってみたい」温泉地を尋ねた。複数回答5つまで。

分析 由布院温泉が12年連続1位! 「あこがれ」には年代差も

◆トップ3は前回から変わらず、1位は12年連続で由布院温泉が選ばれた。4位の別府温泉郷は全国人気温泉地ランキングと同様にあこがれ温泉地としても前回から+1ランク。性・年代別に見ると、別府温泉郷は特に20代～40代男女からのあこがれが強いことがわかる。
◆全年代総合のランキングでは11位だった熱海温泉が、20代では男性3位、女性5位になった点も特徴的。また、全年代総合のランキングで2位だった乳頭温泉郷は、40代以上が支持者層であることが見てとれる。

全国あこがれ温泉地ランキング性年代別

男性年代別ベスト5

	温泉地名	都道府県	得票数
20代男性 (n=165)	第1位 別府温泉郷	大分県	34
	2 草津温泉	群馬県	32
	3 熱海温泉	静岡県	30
	4 箱根温泉	神奈川県	29
	4 由布院温泉	大分県	29
30代男性 (n=570)	第1位 由布院温泉	大分県	125
	2 別府温泉郷	大分県	109
	3 草津温泉	群馬県	89
	4 登別温泉	北海道	86
	5 道後温泉	愛媛県	79
40代男性 (n=1512)	第1位 由布院温泉	大分県	365
	2 別府温泉郷	大分県	274
	3 草津温泉	群馬県	245
	3 乳頭温泉郷	秋田県	226
	5 指宿温泉	鹿児島県	220
50代男性 (n=1960)	第1位 由布院温泉	大分県	475
	2 乳頭温泉郷	秋田県	371
	3 指宿温泉	鹿児島県	303
	4 別府温泉郷	大分県	271
	5 登別温泉	北海道	253
60代男性 (n=1429)	第1位 乳頭温泉郷	秋田県	289
	2 由布院温泉郷	大分県	256
	3 銀山温泉	山形県	173
	4 指宿温泉	鹿児島県	160
	5 草津温泉	群馬県	154

女性年代別ベスト5

	温泉地名	都道府県	得票数
20代女性 (n=564)	第1位 別府温泉郷	大分県	143
	2 由布院温泉	大分県	133
	3 草津温泉	群馬県	105
	4 箱根温泉	神奈川県	102
	5 熱海温泉	静岡県	92
30代女性 (n=1225)	第1位 由布院温泉	大分県	299
	2 別府温泉郷	大分県	249
	3 草津温泉	群馬県	234
	4 箱根温泉	神奈川県	193
	5 熱海温泉	静岡県	174
40代女性 (n=1927)	第1位 由布院温泉	大分県	468
	2 乳頭温泉郷	秋田県	335
	3 別府温泉郷	大分県	309
	4 草津温泉	群馬県	308
	5 指宿温泉	鹿児島県	304
50代女性 (n=1756)	第1位 由布院温泉	大分県	435
	2 乳頭温泉郷	秋田県	310
	3 道後温泉	愛媛県	267
	4 指宿温泉	鹿児島県	261
	5 草津温泉	群馬県	260
60代女性 (n=539)	第1位 乳頭温泉郷	秋田県	97
	2 由布院温泉	大分県	82
	3 黒川温泉	熊本県	70
	4 草津温泉	群馬県	68
	5 銀山温泉	山形県	64

部門別ランキングには大幅に順位を上げた温泉地も

続いて部門別ランキングの結果を見ていこう。「全国あこがれ温泉地ランキング」、「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」いずれも、トップ3は前回と同じ温泉地が選ばれた。つまり前出の「全国人気温泉地ランキング」を含めた主要3部門すべてで、トップ3は前回と変動がなかったわけだ。上位になる温泉地は、一時の流行に左右されない高い実力があることが改めて感じられる。

「全国あこがれ温泉地ランキング」でトップ5になった温泉地の「あこがれる」理由も紹介しよう。上位5温泉中4温泉で「有名なので」が最も多かった。「一度は行ってみたい」と思われるには、まずは認知度を上げることが大切だろう。また、上位5温泉中4温泉で「温泉の効能や泉質に興味があるから」という理由が「街の雰囲気によさそうだから」との理由よりも多く選ばれていた。一方で「全国人気温泉地ランキング(もう一度行ってみたい温泉地)」トップ3の選択理由では「温泉の効能や泉質」よりも「街の雰囲気」が重視されている。泉質にあこがれて訪れた人を再び呼ぶには、街の雰囲気づ

全国温泉地1年間の訪問経験ランキングベスト20

全体(n=12,017)

	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
第1位	箱根温泉	神奈川県	1466	1→
2	別府温泉郷	大分県	963	2→
3	草津温泉	群馬県	923	3→
4	熱海温泉	静岡県	921	4→
5	鬼怒川温泉	栃木県	722	7↑
6	道後温泉	愛媛県	707	6→
7	有馬温泉	兵庫県	683	5↓
8	由布院温泉	大分県	655	8→
9	下呂温泉	岐阜県	591	9→
10	那須温泉	栃木県	586	10→
11	定山溪温泉	北海道	568	17↑
12	伊香保温泉	群馬県	551	11↓
13	白浜温泉	和歌山県	542	14↑
14	伊東温泉・宇佐美温泉	静岡県	533	13↓
15	登別温泉	北海道	529	12↓
16	加賀温泉郷	石川県	499	15↓
17	湯河原温泉	神奈川県	458	16↓
18	城崎温泉	兵庫県	429	22↑
19	淡路島の温泉 (洲本温泉・南あわじ温泉郷・岩屋温泉)	兵庫県	420	31↑
20	霧島温泉 (霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷)	鹿児島県	418	21↑

最近1年間(2016年8月頃～2017年8月頃)に行ったことのある温泉地について尋ねた。

分析 上位陣は変化が少ない一方、ぐっと順位を伸ばす温泉地も

◆1位～4位は前回と変化なく、毎年コンスタントに訪問される温泉地といえる。鬼怒川温泉は前回から+2ランクで5位となり、これは同部門の調査が始まった2008年以来で最高順位だ。
◆その他、11位・定山溪温泉は6ランク、18位・城崎温泉は4ランクの上昇。両温泉ともに全国人気温泉地ランキングでも順位を上げており、勢いにかけている温泉地だろう。19位・淡路島の温泉は前回から+12ランクとなり、全国人気温泉地ランキングと同様に急上昇している。

全国温泉地満足度ランキングベスト20

全体(n=12,017)

	温泉地名	都道府県	満足度(%)	集計対象数	総人気
第1位	高湯温泉	福島県	97.1	102	96
2	乳頭温泉郷	秋田県	95.6	204	13
3	白骨温泉	長野県	95.5	156	26
4	ウトロ温泉	北海道	94.8	134	52
5	万座温泉	群馬県	94.2	277	29
5	城崎温泉	兵庫県	94.2	429	10
7	乗鞍高原温泉	長野県	94.1	119	88
8	草津温泉	群馬県	94.0	923	2
8	奥飛騨温泉郷	岐阜県	94.0	417	16
10	銀山温泉	山形県	93.3	104	44
11	久住温泉	大分県	92.9	127	106
11	長湯温泉	大分県	92.9	127	86
13	由布院温泉	大分県	92.5	655	3
14	黒川温泉	熊本県	92.3	362	8
15	霧島温泉 (霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷)	鹿児島県	92.1	418	14
16	別府温泉郷	大分県	91.6	963	3
17	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	91.4	174	34
18	野沢温泉	長野県	91.0	133	39
18	指宿温泉	鹿児島県	91.0	355	7
20	箱根温泉	神奈川県	90.7	1466	1

最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した温泉地」について尋ねた。1年間の訪問者が100人以上の温泉地(153カ所)をランキング。
※「総人気」の列は「全国人気温泉地ランキング」の順位

分析 〽もう一度行ってみたい」と「満足度」は別の話?

◆1位は97.1%もの人が「満足した(とても満足・やや満足)」と回答した高湯温泉。人気温泉地ランキングでは96位止まりであり、上位20のその他の顔ぶれを見て「もう一度行きたい温泉地」として選ばれた人気温泉地ランキングとは順位があまり運動していない点が興味深い。
◆比較的、小規模な温泉地や、アクセスの便がよくない温泉地が多く、ターゲットが絞られていたり、再訪が難しい、というのも理由の一つかもしれない。

くりもおろそかにできないようだ。

「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」は、前回から+2ランクで5位になった鬼怒川温泉ほか、「全国人気温泉地ランキング」で前回から順位を上げた定山溪温泉、城崎温泉、淡路島の温泉、霧島温泉がこちらでもランクアップ。特に淡路島の温泉は本部門で+12ランク、「全国人気温泉地ランキング」では+15ラ

ンクの躍進を遂げている。

「全国温泉地満足度ランキング」は前回までランク付け対象を年間訪問者50人以上の温泉地にしていたが、今回は年間訪問者100人以上の温泉地を対象にしたため、前回順位との比較は避ける。満足度を見てみると1位の高湯温泉は前回92・6%、前回96・8%、そして今回97・1%と年々上昇。この調子で高い満足度

を保ちつつリピーターを増やしていけば、「全国人気温泉地ランキング」での順位も上げていけそうだ。

各部門の上位にランクインした温泉地は一見、例年変わり映えしないように思えるが、各部門の分析でも書いたようによく見ていくとランクアップを果たした温泉地もある。次ページからは、そうした「注目の温泉地」の躍進の理由を探っていく。



部門別ランキングから

注目の温泉地の魅力に迫る

「人気温泉地ランキング2018」の各種調査で台頭してきた温泉地をピックアップ。街づくりや誘客戦略など、実力を伸ばしている地域の置かれた状況や取り組みから、旅行者に注目される温泉地として花開くために必要なものを探っていこう。



国内外の旅行者を惹きつける街並みはどのように生み出されたのか？

温泉情緒豊かな景観が支持され主要3部門で順位をアップ

「全国人気温泉地ランキング」「あこがれ温泉地ランキング」「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」の主要3部門すべてでランクアップを果たした城崎温泉。さらに「全国温泉地満足度ランキング」では、訪問者の9割前後が「満足した」と回答する高い満足度を過去10年間キープし続けている。満足した理由コメントを見てみると「街の雰囲気が高（男性24歳）」「湯めぐりが楽しかったから。ザ・温泉街という雰囲気

がよかったから（女性30歳）」といった、「街の雰囲気」に満足した声が多い。「もう一度行ってみたい」理由でも、城崎温泉投票者の8割強が「街の雰囲気が好きだから」と回答していた。

近年はインバウンド需要も急増し、2016年は5年前の36倍にあたる4万人以上の外国人宿泊者が訪れた。

全国温泉地満足度ランキング 城崎温泉の調査結果

	満足度(%)
2018	94.2
2017	89.8
2016	87.5
2015	90.1
2014	89.3
2013	89.7
2012	92.4
2011	91.6
2010	88.1
2009	92.4

り組んできたのであり、市としても城崎の歴史文化を大事にしてサポートしたいと考えています」

共通理念に沿った意思決定で地域のブランド力を高める

古い街並みを守り継ぐことは、それが一部の人の考えではなく地域の総意になっていなければ叶わない。城崎温泉で大切にされてきたという「旅館と商店の共存共栄の精神」は、いかにして育まれたのであろう。城崎の街づくり組織「城崎このさき100年会議」理事長も務める旅館経営者・高宮浩之さんにかがった。「城崎が位置する但馬地方北部は1925年、のちに北但大震災と呼ばれる震災に襲われ、温泉街もほぼ全壊しました。そして街を復興する際に採用した計画が元になり、現在まで続く城崎ならではの魅力ある街並みが生まれた背景があります」

当時は復興を機に近代化を進める声もあったが、温泉街の人々は昔の街並みを取り戻すことを選択。古くから愛されてきた外湯文化こそが、自分たちの強みであると考えたのだ。そして、木造3階建ての旅館や外湯を中心にして、街をめぐり歩ける設計で街づくりを行ったという。

「城崎の宿の8割は家族経営で客室

外国人旅行者が増えた理由は、海外の有名旅行ガイドで紹介されたこと、豊岡市が英語・仏語版の宿泊予約サイト「Visit Kinosaki」を立ち上げるなど誘致に励んだことが挙げられる。しかし、そもそも外国人から注目されたのは、7つの外湯が点在し、古き良き日本の温泉情緒を体現した街並みという魅力があったためだ。

全国区の知名度を目指して市の魅力発信に注力

「城崎を知って、一度来てもらえたら気に入っていただける温泉地だと自負していますが、認知してもらうまでに高いハードルがあります」と話すのは豊岡市大交流課・谷口雄彦課長。1400年の歴史を持ち、関西圏では古くから高く評価されてきた城崎温泉も、全国区ではまだ知名度が十分でないと考えていた。そこで城崎温泉を含めた豊岡市の魅力を首都圏から広めようと、情報発信イベント「豊岡エキシビジョン」を2009年より毎年東京で開催。出版社や広告代理店、旅行関連企業の人々など情報発信力の高い層を招いて、市の文化や食といった取り組みを発信しているという。

城崎らしい街づくりへ向けては、もう一つおもしろい取り組みがある。

数は10室前後。そうした小さな宿1軒では、全国に無数にある宿に太刀打ちできません。そこで「自分の宿ではなく、温泉街」にお客さんをお呼びすること、それがやがて自分のお客さんを増やすことにもなるという考え方が自然と生まれました」

そうした精神は旅館の造りにも表れている。多くの旅館では土産売店やスナックコーナーを設置せず、その役割を温泉街の商店に任せている。旅館内で客を囲い込むよりも、旅行者が周遊して賑わうほうが温泉街としての魅力が高まるためだ。

「城崎温泉では、温泉街全体が一つの旅館であり、駅が玄関、外湯が浴場、宿が客室といったとえをよくします。旅館内の売店の役割は、温泉街の土産店が担っているわけですね。だから当たり前のように旅館も商店もみんなが、街を盛り立てるために協力をする風土があります。そして昔から築き上げてきた城崎らしい街並みが、城崎ブランドであり、これを失わない街づくりが第一義であるという共通認識があるのです」

老いも若きも、外国人までもが楽しそうに浴衣姿でそぞろ歩く城崎の温泉街に身を置くと、



城崎の地産地読本では湊かなえ氏などが書き下ろし作品を発表。タオル地のカバーや城崎名物のカニの殻のように凹凸がある外箱など、装丁も凝っている

『城の崎にて』を記した志賀直哉をはじめ多くの文人に愛された「文学のまち」という城崎の魅力をいま一度磨き直すため、2013年からオリジナル書籍を発行しているのだ。「文学のまち」を標榜しながら全く文学らしさが感じられないよね、ということから始めた試みです。城崎温泉旅館経営研究会が出版元を立ち上げ、城崎町内だけで販売する、『地産地読』の本なんですよ」

こうした取り組みを重ねてきた結果、全国各地からの取材・問い合わせが徐々に増加。また最近はいンバウンドが急増した影響でニュース記事などへの露出が増え、結果的に国内旅行者からの注目も高まっていると感じているという。

新たな試みを打ち出す一方、古くからの温泉情緒豊かな街並みが広がるのも城崎の魅力。その景観形成に市はどう取り組んでいるのか。

映画のセットに迷い込んだような感覚になる。それほどに街全体のイメージが統一されているのは、「城崎ブランドを守る」という理念が地域に浸透しているからだ。自分たちの温泉地の独自性や強みはどこにあるのか？それを活かすためには何を選択すべきか？こうした、街づくりの土台になる問いに対して、地域全員が同じ解をもち、行動指針としている。「一度は行きたい、もう一度行ってみよう」と思われる温泉地となり、そして訪問者の高い満足度を獲得するには、まず地域一人ひとりの意識を一つにすることが求められると言えそうだ。



夏に20日前後開催する花火をはじめ、街の催事も自らの旅館の営業活動の一環だととらえているため、各旅館が率先して縁日運営や人員整理などの応援に駆け付ける



柳や桜が川沿いを彩る温泉街を浴衣姿で歩き、7つの外湯をめぐるのが城崎の楽しみ方。外湯が閉まる23時まで多くの商店が営業し、夜の街歩きを楽しむ旅行者に対応しているのも特徴だ

02 別府温泉郷

大分県別府市

夢物語のような動画「湯く園地」を
現実化させた舞台裏を支えたもの

市民と一緒にゴールを目指し
大反響のプロモーションに

「全国人気温泉地ランキング」初回以来11年間、6位く4位を推移してきた別府温泉郷が今回ついに初のトップ3入り。もともと国内でも知名度抜群の温泉郷が、さらに躍進した背景には動画を発端としたプロモーション「湯く園地」の影響も大きいだろう。裸にタオルを巻いた人々が園内を歩き、ジェットコースターを見るとゴンドラはなんと温泉の湯船。遊園地ならぬ「湯く園地」との



クラウドファンディングと市への直接寄付で支援総額は8182万円に達し、8つの特製アトラクションを実現。ジェットコースターはお湯ではなく温泉水の泡で満たされた。来園者は7割近くが市外から訪れ、20代～40代が7割強



湯く園地の世界を描いた動画では、市長が足湯に浸かりながら公約を発表。エキストラも市民が演じており、総勢150人以上が協力した

補佐兼別府ブランド推進係長・堀景さんにうかがった。

「水（温泉）と遊具の相性は非常に悪いことをはじめ、実現には難題が多かった」という堀さん。「それでも実現させる！」との思いで市職員一同が取り組みも、なかなか進まない。「そんな状況を救ったのが市民ボランティアの方々。状況を見かねて、手伝うよと市民の方たちが名乗り出てくれたんです。そこからは地元の人のネットワークのおかげで温泉の配管の手配から備品用意まで、スムーズに話が進みました」

プロのイベント業者に任せる手もあったが、地元の手作りといえる方法を選んだのは理由がある。

「プロ任せにしたら、役所が勝手にやっているという印象になり市民が置き去りになる。そうではなく、今回の経験値が地元の人に残り、今後に活かせる形にしたかったのです」開催日の運営ボランティアにも、のべ約1200人が協力。暑い中で行列する来園者をうちわであおぐなど、自発的に考えたおもてなしをする姿に驚かされたという。また、事業資金もクラウドファンデ

03 鬼怒川温泉

栃木県日光市

訪問経験調査で過去最高の順位に。
人気を押し上げた要因とは…?

地域に関心が高まる
チャンス逃さず着実に誘客

「全国人気温泉地ランキング」で＋2ランクとなった鬼怒川温泉は、「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では過去最高位の5位に輝いた。人気浮上のわけを探ると、いくつかの要因が見当たった。一つは、今年4月く6月開催の「栃木デザインフェスティバル（DC）2018」を控え、昨年春にプレDCとして県内各地で開催した観光キャンペーン。鬼怒川温泉でも、「夜桜と宴会」を楽しむ企画を実施した。



鬼怒川の渓谷周辺に約50軒の宿が点在する関東有数の大型温泉地。今回の全国人気温泉地ランキング調査対象にした栃木県内11湯のなかではトップの人気

もう一つの要因は昨年3月、日光東照宮の国宝・陽明門が40年ぶりの大修理を経て公開されたことが挙げられる。三猿の彫刻も65年ぶりの修復を終え、日光東照宮は参拝客が激増。年間参拝者数は前年比74万人増にあたる267万人に達した。日光東照宮周辺の温泉地のなかでも鬼怒川温泉は大規模な宿が多く、急増した旅行者の受け皿になれる。そして、大型観光キャンペーンや周辺地域のイベントという好機を逃さず、各宿でもPR強化をしたことが今回の躍進にも結び付いたのだろう。

昨年8月には東武鉄道の下今市駅く鬼怒川温泉駅でSL「大樹」の運転がスタートし、今春には栃木DCの本番が行われる。この追い風にのって、さらなる躍進の年に見えるか期待大だ。

昨年8月には東武鉄道の下今市駅

全国温泉地満足度 秘湯部門ベスト10

最近1年間に行って「満足した温泉地」を調査した「全国温泉地満足度ランキング」のうち、1年間の訪問者50人以上100人未満に限定したランキング。

	温泉地名	都道府県	満足度(%)	集計対象数	前回順位
第1位	黒部峡谷温泉群	富山県	94.4	71	NEW
2	九重“夢”温泉郷	大分県	93.5	77	2 →
3	わいた温泉郷	熊本県	93.4	91	NEW
4	十勝岳温泉	北海道	92.6	54	10 ↑
5	穂高温泉郷	長野県	92.2	90	5 →
6	小田・田の原・満願寺温泉	熊本県	92.0	88	3 ↓
7	龍神温泉	和歌山県	90.4	94	1 ↓
8	十津川温泉	奈良県	90.2	82	NEW
9	上高地温泉	長野県	90.1	81	NEW
10	秋田八幡平温泉郷	秋田県	89.0	91	4 ↓

※前回順位の「New」は前回調査時にトップ10圏外だった温泉地

部門の常連だったのだ。秘湯部門を訪問者50人以上100人未満に設定した2015年以降は5位、1位を経て、前回・今回は総合で1位になった。ということは今回の秘湯部門ベスト10にも、総合部門の上位になる有力候補が潜んでいる可能性があるのではなかろうか？

高湯温泉は満足度ランキング（秘湯部門または総合部門）の常連であり、かつ毎回90%以上の満足度を獲得している。この条件に当てはまる温泉地を探すと、今回2位の九重“夢”温泉郷が該当。調査対象温泉地として初登場した2016年以降、秘湯部門8位・2位・2位と順位を上げており、総合部門への躍進が期待できる。また、秘湯部門を訪問者50人以上100人未満で調査した2015年以降で初めてランキングした8位の十津川温泉も注目。旅館5軒、民宿2軒のみという秘湯だけあり訪問者数を伸ばすのは簡単ではないかもしれないが、まずは秘湯部門の常連になれるか見守りたい。

04 注目の秘湯

全国各地

満足度ランキング秘湯部門には
今後が楽しみみな有望株が潜伏!?

支持を得た地域の魅力を高め、
訪問者を増やして躍進を

「全国温泉地満足度ランキング・秘湯部門」は毎回上位陣の入れ替わりが激しく、今回もトップ10中4つが新顔だ。だが変動が大きくても、経年で比較すると見えてくるものがある。満足度ランキングの訪問者100人以上の総合部門（P19）で1位になった高湯温泉も、かつては秘湯

イングや寄付という、市民参加型の手段で調達。動画再生（視聴）から資金調達、企画運営まで、市民を巻き込んでゴールへ突き進んだ。結果として3日間で来園者は計9165人、経済波及効果は市の推計では1億8547万円超に。

「私たちとしては一時の経済効果より、地元の人と協力できた点、世間に別府の名前が広まったことが財産。多くの注目を集めたことは、地域の誇りにもなりました。また、温泉と遊園地という昔からあるものでも、視点を変えるだけで全く別ものが生み出せると実感できたのも収穫です」すでに有名に思える別府でも「世に名が出た」と喜ぶ点が意外だと伝えると、堀さんは「とんでもない、常に危機感はありません」と話す。「日本中に温泉があるなか、別府の存在感を出すのは簡単ではありません。別府がまた何か始めたぞ」と思ってもらえるように、常に発信し続けるのが大事だと思います」



注目の
温泉地の
魅力に迫る